

服薬ケア研究会 第58回例会



日時：平成29年7月17日(祝)

【第1部】 10:00～12:00 特別講演「服薬指導の組み立て方」 共催：田辺製薬販売株式会社
講師：服薬ケア研究会会頭 岡村 祐聡 先生

【第2部】 13:00～16:00 「頭の中をPOSにする！」ワーク特別編(症例#24)
チューター：服薬ケア研究会会頭 岡村 祐聡 先生



場所：兵庫県民会館 1202号室

〒650-0011 神戸市中央区下山手通4-16-3 Tel.078-321-2131
地下鉄山手線「県庁前駅」下車 東出口1から右へ50m
JR神戸線「元町駅」下車 北へ徒歩約7分

参加費：一般会員…4,000円、非会員…6,000円、学生…2,000円

参加人数：ワーク席…10名、オブザーバー席…40名

先着順(入金をもって正式に受付とします)

日本薬剤師会研修センター認定研修 3単位



***** あなたの服薬指導をレベルアップ!! *****

あなたは、「服薬指導の組み立て方」を学んだことがありますか？ 薬学的な知識はもちろん必要ですが、良い服薬指導は、薬学的な知識があるだけではできません。服薬指導を組み立てる方法論を身に付ける必要があります。このワークは、まさにそのために考案された薬剤師としての実力を総合的に高める演習です。その神髄は「POSの考え方を身に付けること」だったのです！ プロブレムを意識して服薬指導を組み立てることなのです。

名古屋、東京で開催され、大好評だったこのワークがついに関西地区で開催されます！このワークで得られる効果は3つ。その1「何を聞くべきか判断できる」:服薬指導は質問が命！なぜその質問をするのか、その結果何がわかり、どのような選択肢が考えられるのかを明確にすることで、短時間で的確な服薬指導が可能になります。その2「プロブレムの本質を捉える」:人は理屈や情報ではなく、感情によって行動するため、プロブレムを解決するには感情への着目が鍵になります。その3「薬歴を書く時間が短縮する」:この方法では、指導が終わった時には薬歴に書く内容が既に出て上がっているため、薬歴が書けないという悩みがなくなります。さあ、次はあなたが身に付ける番です！

参加申込みは以下の必要事項を記入の上、メール:jimukyoku@fukuyaku.net または FAX:03-6368-6058 まで(お問合せもコチラへどうぞ) お送りください。折り返し入金方法等を(回答も)お送りしますので、返信先(メールアドレス または FAX)を必ずお書き下さい。メールは jimukyoku@fukuyaku.net からお送りしますので受信ができるよう設定をお願いします。

.....<7/17 第58回例会に参加します>.....

○^{ふりがな}氏名: _____ ○メールアドレス: _____

○住所:(自宅・勤務先)〒 _____

○電話:(自宅・勤務先) _____ ○FAX:(自宅・勤務先) _____

○勤務先 _____ ○職種 _____ ○服薬ケア研究会会員?:はい(会員番号: _____)・いいえ

○参加希望席: ワーク席・オブザーバー席 (○が無い場合はこちらで指定させていただきます。)

○同時入会を希望しますか? はい・いいえ

※入会金 2,000円 年会費 5,000円
※同時入会されますと、参加費が会員料金になります。

頭の中を POS にする！とはどんなワーク？

すべての薬剤師に必ず学んでいただきたい

大変学習効果の高い演習です！



この「頭の中を POS にする！」（特別編）は、岡村先生のご著書「薬局薬剤師の患者対応」（p78～83）、「患者対応技術の実践法」（p32）などに紹介されているワークで、**薬剤師の実力をつけるための総合演習として最適なワーク**です。このワークに 20 回から 30 回参加すれば、薬剤師として一流の思考力と患者応対力を身につけることができます。現在現役で活躍するすべての薬剤師に参加して欲しい演習であると考えています。現在、服薬ケア研究会がこのワークの研修会を全国各地で開催しておりますが、用いる症例は毎回新たに作っておりますので、同じものは一つもありません。何度参加されても勉強になります。

このワークでは、模擬症例を用いて患者役の方と実際に応対をしながら、「どのように応対するのが良いのか」を学んで行きます。実際には 3～5 分程度で終わってしまう患者さんとのやり取りを、3 時間以上かけてじっくりとディスカッションしながら、組み立てていくのです。特にこの「特別編」では、岡村先生が直接チューターを務めてくださいますので、「服薬ケアステップ」（患者応対を効果的に進めていくための方法論）の実践応用例として、まさに実践しながら「どのように考えれば良いのか」を学ぶことができます。

このとき、5～10 名の**ワーク席の参加者**は応対する薬剤師役となり、チューターとやり取りしながら**プロブレムを見つけ、最適なケアを探して行きます**。ワーク席の参加者は、自ら意見を述べたり、チューターより発言を求められたりします。また、実際に患者役相手に服薬指導を行います。したがって、自分自身で実際に症例に取り組み、最適なケアを組み立てる思考訓練を行いたい場合には、ワーク席にご参加下さい。

オブザーバー席の参加者は、基本的にはワーク席の参加者がケアを組み立てていく様子を周りで見学する形になります。チューターから指名され、発言を求められることはありません。講師はチューターをやりながら適宜必要な解説をはさんでいきますので、患者さんとのやり取りや講師の解説を聞きながら、落ち着いて「どのように考えれば良いのか」を学ぶことができます。そのため、指されることにより緊張することなく、しっかりとその考え方を学ぶことができます。さらにオブザーバー席の方は、チューターより指されることはありませんが、自分で意見を述べたいときには挙手して意見を述べることができます。したがって、ワークの流れに自分の意志で参加することは可能ですので、ただ単に「見ているだけ」ではありません。そういう意味で、**ワーク席での参加よりも、オブザーバー席で参加した方がむしろ勉強になる方もいるはず**です。

ワーク席の参加者は、ディスカッションに直接参加しながら、交代で実際の患者応対も行いますので、患者応対の組み立てだけでなく、コミュニケーション技法も学ぶことができます。「服薬ケアコミュニケーション」の実践練習も同時に行うことができます。

このように、ワーク席、オブザーバー席、どちらの参加でも、とても勉強になります。

患者役も参加者の中から、希望者（会員限定）にやっていただきます。実は患者役が一番勉強になると言われており、希望者も大変多いため、会員の中から事前に希望者を募っております。1 回以上この「頭の中を POS にするワーク」に参加したことがある会員の方は、患者役での参加も可能ですので、事前に事務局まで予約申込をしてください。

なお、参加される場合、必ず自分が使い慣れた薬や病気に関する参考書などを持参してください。このワークは考え方を学ぶワークですので、知識があやふやでは思考を組み立てることができません。特にワーク席参加の方は、忘れずにお持ち下さい。もちろん、オブザーバー席での参加の方もお手元で調べながら学んだ方が良いでしょう。（主催者側では特に添付文書などは用意しませんので、必ずご自身でご持参下さい。）